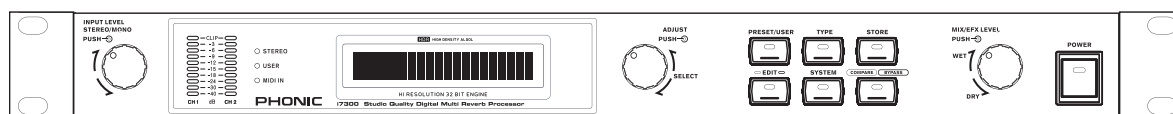
PHONIC

i7300

ReverbMaster

取扱説明書

i7300
ReverbMaster

CONTENTS

V1.0

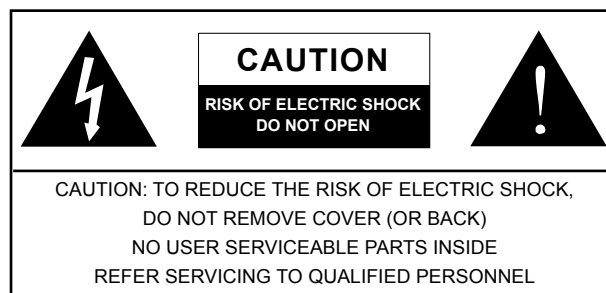
安全上のご注意

当製品を安全かつ正しくお使い頂く為に、「安全上のご注意」及びこの取扱説明書を必ずお読み下さい。
お読み頂いた後は、保証書と一緒に大切に保存して下さい。

1. この取扱説明書に従ってご利用下さい。
2. 温度の高い場所(直射日光が当たる場所や暖房器具の側など)や、湿度の高い場所(水気の近くや雨中などの濡れる場所)でのご使用・保管はお止め下さい。
3. 当製品を改造・分解しないで下さい。
4. 当製品は精密機器です。強い振動や衝撃を与えると内部に異常をきたす恐れがあります。運搬、ご使用の際の振動や落下に十分ご注意下さい。
5. 長時間ご使用されない時は、電源の元となる電源コードをコンセントから抜いておいて下さい。
(乾電池をご使用頂く製品は乾電池を取り外して下さい)
6. 100V 50/60Hzの定格電圧でのみご使用下さい。
7. 換気を必要とする機器は通気口を塞がない様にお気をつけ下さい。
8. 機器同士をケーブルで繋ぐ際は、全ての機器を繋ぎ終えた上で、電源を入れて下さい。また、電源を入れる前に機器のボリュームが最小値になっていることを確認して下さい。
9. 電源コード及び接続部には負荷がかからない様ご注意下さい。
10. 修理が必要な場合は、ご購入頂きました販売店様へご連絡を頂き、修理依頼をお願いします。
保証書が無い場合は保証が適応されませんので、大切に保管して下さい。

CAUTION

RISK OF ELECTRIC SHOCK
DO NOT OPEN

CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK,
DO NOT REMOVE COVER (OR BACK)
NO USER SERVICEABLE PARTS INSIDE
REFER SERVICING TO QUALIFIED PERSONNEL

このマークは、製品の筐体の内部に電圧が流れており、感電する危険があることを示しています。

このマークは、付属の取扱説明書に大切な安全上の注意や操作方法が記載されていることを示しています。

基本性能

・24ビットA/DおよびD/Aコンバータに対応した高分解能、256/512倍オーバーサンプリング

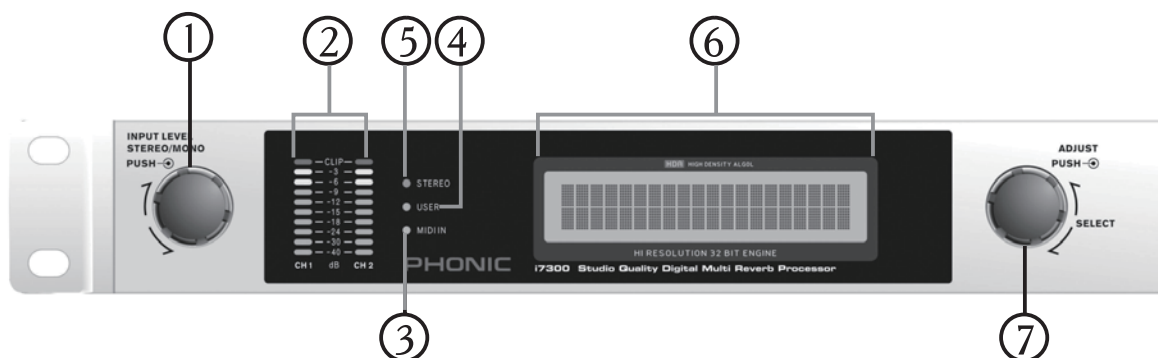
・44.1kHzのサンプリングレートに対応した32ビット内蔵プロセッサー

・100種類のファクトリープログラムと100件のユーザープログラム

・デュアル10セグメントLEDレベルメーター

・入出力で個別に選択可能な+4dBuおよび-10dBV動作レベル

・リアルタイムでのプログラム選択に対応したMIDI機能

各種コントロール/ディスプレイ

フロントパネル

1. INPUT LEVEL/STEREO－MONOコントロール

入力信号の感度を+6～-40dBの間で調整出来ます。このつまみを押すと、入力信号をStereo Normal、Stereo Reverse、Mono Left、Mono Rightから選択することが出来ます。このつまみはプリセットから完全に独立しているため、プリセットを呼び出しても、現在の入力レベルやモノラル/ステレオの設定が変更されることはありません。

2. 入力レベルメーター

入力信号レベルをdB単位で確認することが出来ます。バイパスモードを有効にすると、オーディオ信号の現在の入出力レベルを示すようになります。

3. MIDI INインジケーター

MIDIインジケーターには、MIDIの信号接続と受け渡しステータスが表示されます（i7300がMIDIデータを受け取っているときに点灯します）。MIDIの操作の詳細については、本書のMIDIに関するセクションを参照してください。

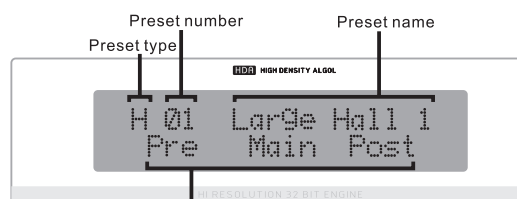
4. USERインジケーター

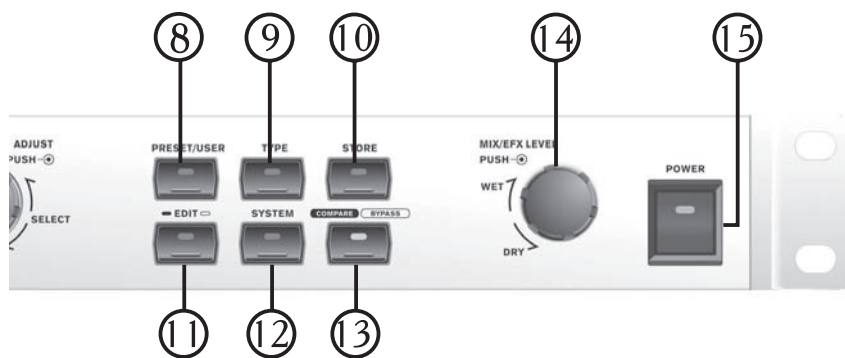
ユーザープリセットを使用、編集、テスト、または表示しているときに点灯します。これにより、ユーザープリセットとファクトリープリセットを容易に区別することが出来ます。

5. STEREOインジケーター

i7300の入力がStereo NormalまたはStereo Reverseモードのときに点灯します。このLEDは、入力モードがMono RightまたはMono Leftに設定されているときには点灯しません。

6. 液晶ディスプレイ

現在選択されているプログラムの詳細、編集中の基本パラメータ、およびReverbMasterの機能に関連するその他の情報が表示されます。液晶ディスプレイは2行で表示されます。最初の行には、リバーブプログラムのタイプ（"R"– Room –"H"– Hall –"P"– Plate –"S"– Special）と、プリセット番号（1～25の番号）とプリセット名が表示されます。2番目の行には、入力レベル、ミックスレベル、リバーブパラメーターなどの、編集中のプロパティが表示されます。

7. ADJUSTコントロール

i7300の各種パラメーターオプションをスクロールする場合に使用します。このつまみを押すと、プログラムを選択して各種パラメーターを編集し、編集がすべて完了した時点で選択内容を確定することが出来ます。

8. PRESET/USERキー

PRESET/USERキーは、100種類のファクトリープリセットの中からプリセットを呼び出す場合に使用します。このキーを2回押すと、ユーザープリセットとして保存したプリセットを呼び出すことが出来ます。（ユーザープリセットは、液晶ディスプレイの左側にあるUSERインジケーターで示されます）PRESETキーを押してファクトリープリセット/ユーザープリセットメニューに移動したあとで、ADJUSTつまみを使用してさまざまなプリセットをスクロールすることが出来ます。

9. TYPEキー

プリセットを選択する際にこのキーを押すと、使用するエフェクトプログラムのタイプ（HALL、ROOM、PLATE、またはSPECIAL）を選択することが出来ます。それぞれのタイプごとに、選択対象のプリセットが25ずつ存在します。

10. STOREキー

ユーザーが指定した25のユーザープリセットスロットのいずれかに、ユーザーが編集したプログラムを保存する場合に使用します。STOREキーを押して、プリセットスロットを選択し、プリセット名を編集して、STOREキーをもう一度押すと、保存は完了です。

11. EDITキー

EDITキーを押すと、各種リバーブプロパティを調整してエフェクトをさらに調整することが出来ます。EDITキーを押すと、液晶ディスプレイの下段のPreオプションの前後に括弧が表示されます。続いて、ADJUSTつまみを使用して「Main」および「Post」のオプションをスクロールし、ADJUSTつまみを押してこれらのメニューを選択します。

12. SYSTEMキー

パラメーターメニューにアクセスして、フットスイッチの操作やMIDIコントロール機能などの、各種機能のプロパティを変更することが出来ます。SYSTEMキーを押すと、これらのメニューをスクロールすることが出来ます。続いて、ADJUSTつまみを押すと、選択したメニューを開いてパラメーターを調整することができます。

13. COMPARE/BYPASSキー

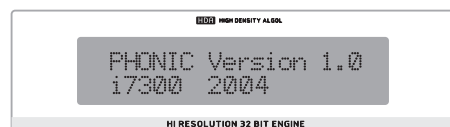
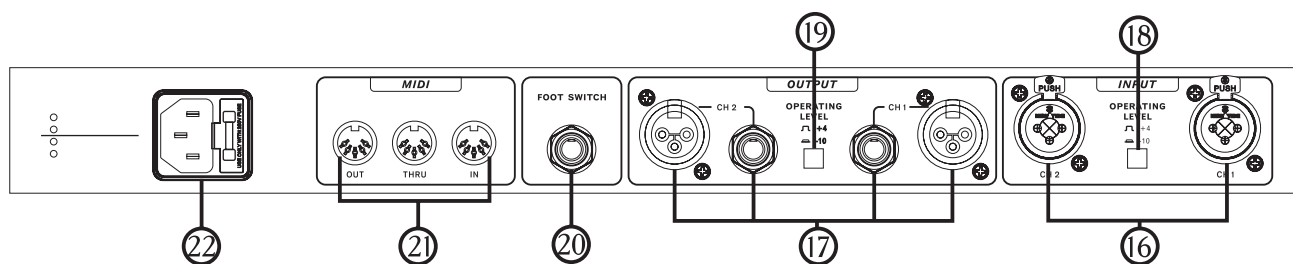
用途に応じて、BYPASSまたはCOMPAREキーとして機能します。このキーを押すと、すべてのエフェクトが無効になるか、または以前のエフェクトに戻ります。

14. MIX/EFX LEVELコントロール

液晶ディスプレイの下段に表示される、ドライ/ウェットのミックス比率を0〜100%の間で調整します。このつまみを押すと、EFX LEVELを0〜100%の間で調整することが出来ます。

15. POWERスイッチ

ReverbMasterの電源をオン/オフにすることが出来ます。

HDR HIGH DENSITY ALGOL
PHONIC Version 1.0
i7300 2004
HI RESOLUTION 32 BIT ENGINE

リアパネル

16. オーディオ入力コネクター

外部機器を接続するバランス入力コンボコネクター（XLRジャックおよび1/4"TRSフォンジャック両方対応）です。

17. オーディオ出力コネクター

ミキサーやマルチトラックレコーダーなどに信号を出力するXLRおよび1/4"TRS出力端子です。

18. OPERATING LEVEL（入力）-10dB/+4dBu

ReverbMasterの入力レベルを設定する際に使用します。

19. OPERATING LEVEL（出力）-10dB/+4dBu

ReverbMasterの出力レベルを設定する際に使用します。

20. FOOT SWITCHコネクター

別売りフットスイッチを接続すると、エフェクトのバイパスや、現在選択されているプリセットのコントロールを行うことが出来ます。

21. MIDIコネクター

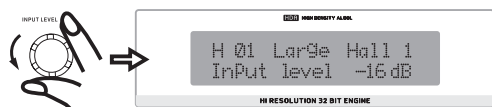
MIDIデータを送受信します。INコネクターでMIDI信号を受け取り、OUTコネクターからMIDI外部デバイスにMIDI信号を送信します。THRUコネクターでは、複数のMIDIデバイスをデイジーチェーン接続する場合に、INコネクターで受け取ったMIDIコントロールデータを、別のMIDIデバイスに送信します。

22. 電源ケーブルコネクター

付属の電源コードを接続します。必ず付属の電源コードをお使い下さい。

i7300の操作方法

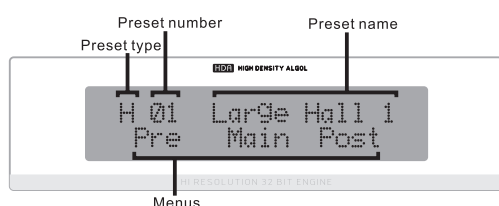
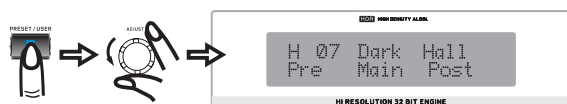
入力レベルの変更

i7300の背面にある入力ポートに対する入力レベルを変更する場合は、INPUT LEVELジョグホイールを使用します。ジョグホイールを回すと、入力レベル（-∞～6dB）を変更することができます。入力レベルは液晶画面の下段に表示されます。入力レベルの変更中に、ジョグホイールを2秒間動かさないと、液晶画面は前の画面に戻ります。入力レベルの制御は、プリセットプログラムから独立しています（そのため、プリセットを呼び出しても、入力レベルは変わりません）。

入力モードの切り替え

入力モードを切り替えるには、INPUT LEVELジョグホイールを押します。入力モードは、Stereo normal、Stereo reverse、Mono right、Mono leftから選択することができます。Stereo normalまたはStereo reverseを選択すると、液晶画面の左側にあるSTEREOインジケーターが点灯します（モノラルモードの場合、このインジケーターは点灯しません）。入力レベルの場合と同様に、プリセットを呼び出しても、i7300の入力モードは変わりません。

プリセットの選択

プリセットを選択するには、最初にi7300の前面にあるPRESET/USERキーを押して、プリセット選択モードを開始します。プリセット選択モードでは、ADJUSTつまみを使用してプリセットを選択することができます。TYPEキーを押すと、各種エフェクト（Hall、Room、Plate、Special）を切り替えることができます。エフェクトごとに25のプリセットが用意されています。これらのプリセットは、ADJUSTつまみを使用して確認することができます。プリセットには、それぞれのエフェクトを表す名前が付いています。プリセットは、スクロールした時点で自動的に適用されます。ADJUSTつまみを押すと、エフェクトが選択され、プリセット選択モードが終了します。

ユーザープリセットの選択

ユーザープリセットは、基本的に、工場出荷時に設定されたプリセットと同じ方法で選択します。最初に、PRESET/USERキーを2回押します。液晶画面の左にあるUSER LEDが点灯します。ここからは、工場出荷時に設定されたプリセットと同じように、TYPEキーとADJUSTつまみを使用してユーザープリセットを操作することができます。最適なプリセットが見つかったら、ADJUSTつまみを押してプリセットを選択します。

ミックスレベルの変更

処理済みオーディオと未処理オーディオの比率（未処理オーディオに対する処理済みオーディオの飽和度）を変更する場合には、MIX LEVELジョグホイールを使用します。このジョグホイールを回すと、液晶画面の下段に「Wet dry mix」と0～100のパーセンテージが表示されます。0（ドライ）の場合、オーディオはすべて未処理のままになります。ジョグホイールを3秒間動かさないと、画面はMIX LEVELジョグホイールを使用する前の状態に戻ります。

EFXレベルの変更

EFXレベルを編集するには、最初にMIX LEVELジョグホイールを2回押してから、ジョグホイールを回して0～100のパーセンテージを調整し、エフェクトの総出力レベルを変更します。ジョグホイールを3秒間動かさないと、液晶画面は以前の画面に戻ります。

フットスイッチの設定

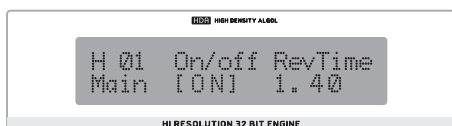
機能の変更

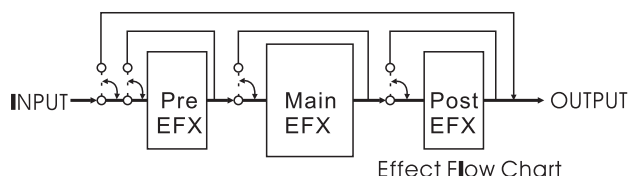
最初に、SYSTEMボタンを押します。最初に表示されるオプションは「Foot Switch」です ADJUSTつまみを回すと、フットスイッチの機能が「Program select」モードと「Bypass」モードの間で切り替わります。選択内容は自動的に適用されます。

エフェクト選択プロパティの変更

フットスイッチの機能が「Program select」に設定されている場合に、SYSTEMキーを2回押すと、選択されたプリセットのプロパティを変更するためのメニューが表示されます。ADJUSTつまみを回すと、1～100の中からフットスイッチプログラムで選択される「最終」プログラムを変更することができます。これで、フットスイッチを使用して、残りのプログラムをスキップして先頭に戻れるようなります。(フットスイッチは別売りとなります)

COMPARE/BYPASS

（ReverbMasterの前面パネルにある）COMPARE/BYPASSキーは、通常、任意のエフェクトがオーディオに適用されないようにするための、BYPASSキーとして機能します。BYPASSキーを再度押すと、バイパスモードが解除され、選択されたエフェクトに戻ります。BYPASSキーが押されているときには、BYPASSキーに組み込まれたLEDが点灯します。

バイパスは、リバーブの各段階（Pre、Post、およびMainエフェクト — 下の図を参照）で個別に有効にすることもできます。EDITキーを押し、対応するメニューを使用してそれぞれのエフェクトを無効にします。バイパスを無効にするには、それらを再度オンにします。

Effect Flow Chart

エフェクトの編集時に、COMPARE/BYPASSキーはCOMPAREキーとして機能します。COMPAREキーでは、エフェクトの編集を開始する前に使用していたプリセットに戻ることが可能で、2つのエフェクトの違い聴き比べることができます。ボタンを再度押すと、編集済みのプログラムに戻ります。

編集済みのプリセットの保存

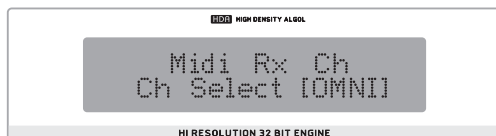
最初に、「編集」モードでエフェクトに対する変更をすべて完了しておきます。（リバーブ時間、遅延、または対応するその他オプションの変更）その後、保存する場合は、STOREキーを押します。STOREキーを押すと、書き込みを行うプリセットスロットを選択することができます。ADJUSTつまみで使用するプリセットスロットまでスクロールし、ADJUSTつまみを押して選択内容を確定します。続いて表示される名前編集セクションでは、プリセット名の個々の文字を編集することができます。カーソルは、タイトルの文字の下に表示されます。ADJUSTつまみを使用して変更したい文字に移動し、ADJUSTつまみを押して選択し、再度ADJUSTつまみを使用して使用可能な文字をスクロールします。もう一度ADJUSTつまみを押すと選択内容が確定します。続いて編集する別の文字に移動することができます。もう一度STOREキーを押すと、保存が完了します。

設定の自動保存

i7300では、ユーザーが設定するパラメーターの変更（プリセット、リバーブ編集、MIDI設定など）を自動的に保存します。保存された設定は、電源を切った場合でも維持されます。このため、停電が発生した場合でも、設定内容が失われることはありません。

MIDI機能の操作方法

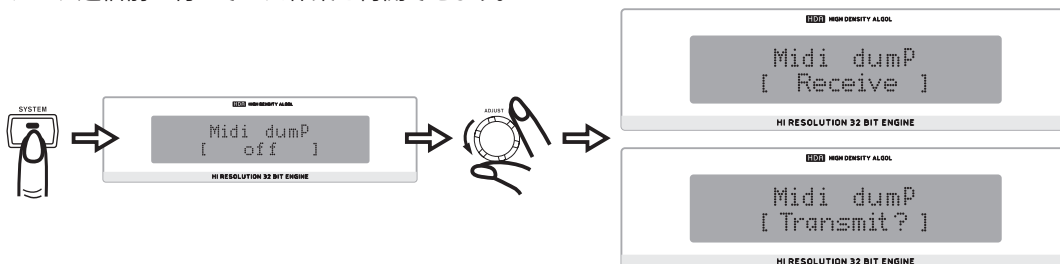
MIDIチャンネルの選択

i7300では、送受信に使用するチャンネルがわかれば、MIDI信号を簡単に送受信することができます。SYSTEMキーを押して画面の上段に「Midi Rx Ch」を表示してからADJUSTつまみを回して、i7300がMIDI信号を受け入れるチャンネルを選択します。（このオプションを使用してMIDIをオフにすることもできます）MIDIデバイスが使用するチャンネルがわからない場合は、OMNIを選択すると、i7300のすべてのチャンネルでMIDI信号を受信することができます。このチャンネル設定は、使用するMIDIデバイスが1つだけの場合に使用してください。

MIDI信号のデイジーチェーン接続

MIDIケーブルをi7300の背面パネルにあるTHRUポートに接続してから、別のMIDI INに接続すると、MIDIデイジーチェーンが構成されます。1台目のデバイスのMIDI INに送信される信号は、2台目のデバイスまで伝達されます。この構成は、3台以上のデバイスのMIDI INに接続して延長することができます。ただし、多数のMIDIデバイスをデイジーチェーン接続した場合、MIDIデータに劣化が生じます。

MIDIデータのバルクダンプ

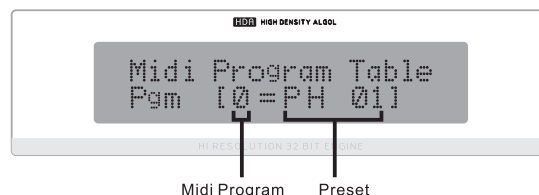
MIDIダンプを使用すると、プリセットと設定をパソコンに保存して、後から呼び出すことができます。そのためには、使用するPCにMIDIコネクター（または、MIDI-USBアダプタ）と、バルクダンプを受信するプログラムが必要になります。

MIDIダンプを受信できるようにPCをセットアップしたら、SYSTEMボタンを数回押して「Midi dump」オプションを画面に表示します。ADJUSTつまみを回して、下段に「Transmit?」を表示します。PCの準備ができている場合、ADJUSTつまみを押すと、現在の設定とプリセットがPCに送信されます。MIDIデータの送信中は、コードの取り外し、コンピューターのシャットダウン、またはReverbMasterの電源オフは決して行わないでください。ダンプが完了すると、データ送信前に行っていた作業を再開できます。

ダンプされたMIDIデータの取り込み

MIDIデータのダンプが完了したら、今度は、MIDIダンプを再度取り込む必要があります。それには、SYSTEMボタンを押して「Midi dump」オプションを再度表示します。次に、ADJUSTつまみを回して「Receive」オプションを表示します。ADJUSTつまみを押すと、i7300 が受信待ち状態になります。MIDIダンプファイルを開き、PCのMIDIプログラムのMIDI送信オプションを使用して、待機中のi7300へデータを送信します。

注意: 編集したMIDIダンプや破損したMIDIダンプをReverbMasterに送信しないようにしてください。予期しない結果を招きます。データをi7300に送り返す際には、元のダンプと送り返すダンプの間に変更が加えられておらず、かつ元のダンプが正常に完了したものであることを確認してください。

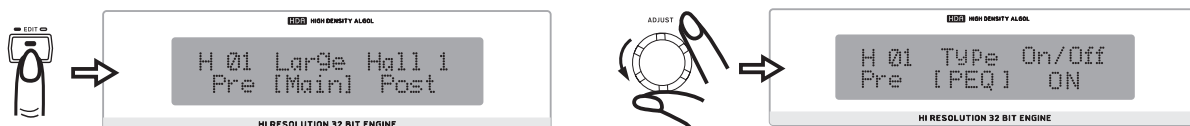
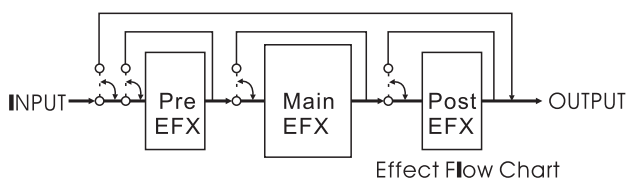
MIDIプログラムマップの変更

特定の外部MIDIデバイスをi7300のMIDI INに接続している場合、これらのデバイスから使用中のi7300のプリセットプログラムを変更することができます。フットスイッチの機能に似ていますが、この場合は、プリセットを切り替えなくても、外部MIDIデバイスから選択したプログラムをi7300で直ちに呼び出すことができます。

MIDIのプログラムマッピングを変更するには、SYSTEMボタンを数回押して「Midi program table」を画面に表示し、ADJUSTつまみを回してMIDIプログラム番号を変更します。変更したいMIDIプログラム番号を見つけたら、ADJUSTつまみを押して、使用するプリセットを変更します。（100件の工場出荷時のプリセットと100件のユーザープリセットから選択できます）

プリセットの編集

内蔵のプリセットプログラムを編集する場合でも、ユーザープログラムを作成する場合でも、手順を理解していれば、独自のリバーブを容易に作成することができます。プログラムはすべて、下の図のように、PreEFX、Main EFX、Post EFXで構成されます。ファクトリープリセット（または、ユーザー定義のプリセット）を呼び出すと、該当するプログラムのこれら3つの段階のリバーブ設定が呼び出されます。これらの設定を変更するには、最初にEDITキーを押します。

続いて、ADJUSTつまみを使用して、Pre、Main、Postメニューオプションを左右にスクロールします。ADJUSTつまみを押して、いずれかのメニューを選択します（EDITキーをもう一度押すと、いつでもメインメニューにジャンプすることができます）。ADJUSTつまみを使用して、編集可能な各種パラメーターを左右にスクロールします。パラメーターを変更する場合は、もう一度ADJUSTつまみを押します。

Effect Flow Chart

Mainエフェクトのパラメーター

下記はMainエフェクトのリバーブパラメーターです。これらのパラメーターはすべて編集や調整が可能で、独自のリバーブプログラムを作成するのに使用できます。

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
RevTime	0.05～10.00秒	リバーブの長さを設定します。
PreDly	0～200ミリ秒	エフェクトが効くまでの時間を設定します。
Er/Lev	0～100	エフェクトのかかりはじめとその後の反響バランスを設定します。
HiRatio	0.01～1.00	高周波数帯におけるリバーブタイムを設定します。
LoRatio	-90～24	低周波数帯におけるリバーブタイムを設定します。
HPF	0Hz～6kHz	ハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
LPF	34Hz～10.0kHz	ローパスフィルターのロールオフ周波数を設定します。
Density	0～100	リバーブエフェクトの密度を設定します。
ST Img	-100～100	リバーブエフェクトのステレオイメージを広く、または狭くすることができます。

Pre/Postエフェクト

以下では、リバーブの作成時に使用できるさまざまなタイプのPreエフェクトとPostエフェクト、およびそれぞれの編集可能なパラメーターについて説明します。以下のエフェクトタイプは、Pre EQおよびPost EQを除き、PreエフェクトまたはPostエフェクトのいずれか一方にのみ設定可能で、PreエフェクトとPostエフェクトの両方に同時に設定することはできません。

入力で個別に選択可能な+4dBuおよび-10dBVの動作レベル

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
Stereo Link	オンまたはオフ	ステレオリンクを有効にすると、どちらかのチャンネルに対する変更をすべてもう一方のチャンネルに適用することができます。
L1 Gain	-16～+16dB	選択した周波数で左側のEQバンド1のレベルを増減することができます。
L2 Gain	-16～+16dB	選択した周波数で左側のEQバンド2のレベルを増減することができます。
L1 Fq（周波数）	20Hz～20kHz	左側のEQバンド1のオーディオをカット/ブーストする周波数を選択します。
L2 Fq（周波数）	20Hz～20kHz	左側のEQバンド2のオーディオをカット/ブーストする周波数を選択します。
L1 Q	0.1～10	左側のEQバンド1のバンド幅を設定します。
L2 Q	0.1～10	左側のEQバンド2のバンド幅を設定します。
R1 Gain	-16～+16dB	選択した周波数で右側のEQバンド1のレベルを増減することができます。
R2 Gain	-16～+16dB	選択した周波数で右側のEQバンド2のレベルを増減することができます。
R1 Fq（周波数）	20Hz～20kHz	右側のEQバンド1のオーディオをカット/ブーストする周波数を選択します。
R2 Fq（周波数）	20Hz～20kHz	右側のEQバンド2のオーディオをカット/ブーストする周波数を選択します。
R1 Q	0.1～10	左側のEQバンド1のバンド幅を設定します。
R2 Q	0.1～10	左側のEQバンド2のバンド幅を設定します。

フランジャー

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
LFO	0.1～10	モジュレーションのスピードを設定します。
Pre Delay	1～200ミリ秒	エフェクトが効くまでの時間を設定します。
Depth	0～100	エフェクトのデプス(深さ)を設定します。
Phase	0～180°	ディレイ１と２の位相を設定します。
LPF	34Hz～10kHz	ローパスフィルターのロールオフ周波数を設定します。
Balance	0～100	フランジャーリバーブのバランスを調整します。
Mode Typ	Sine、Trg、またはSaw	フランジャーのカーブの種類を設定します。
FB	-100～100	フランジャーのフィードバック量を調整します。

コーラス

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
LFO	0.1～10	モジュレーションのスピードを設定します。
Pre Delay	1～200ミリ秒	コーラスエフェクトが効くまでの時間を設定します。
Depth	0～100	エフェクトのデプス(深さ)を設定します。
Phase	0～180°	左右のコーラスの位相を設定します。
LPF	34Hz～10kHz	ローパスフィルタのロールオフ周波数を設定します。
Balance	0～100	コーラスリバーブのバランスを調整します。
Mode Typ	Sine、Trg、または Saw	コーラスのカーブの種類を設定します。

フェイザー

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
LFO	0.1～10	モジュレーションのスピードを設定します。
Depth	0～100	エフェクトのデプス(深さ)を設定します。
Delay	0.0～5.0	フェイザーエフェクトが効くまでの時間を設定します。
Phase	0～180°	左右のフェイズの位相を設定します。
FB	-100～100	フェイジングのフィードバック量を調整します。
Mod Typ	Sine、Trg、または Saw	フェイザーのカーブの種類を設定します。
Balance	0～100	フェイザーリバーブのバランスを調整します。

パン

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
Speed	0.1～10Hz	モジュレーションのスピードを設定します。
Profundidad	0 a 100	エフェクトのデプス(深さ)を設定します。
Type	I <--> D、D-->I、I-->D	3タイプのパンから選択します。
Mod Typ	Sine、Trg、または Saw	パンのカーブの種類を設定します。

ディレイ

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
L Dly	0.00～2.55	左チャンネルのディレイタイムを選択します。
R Dly	0.00～2.55	右チャンネルのディレイタイムを選択します。
C Dly	0.00～2.55	中央チャンネルのディレイタイムを選択します。
FB Dly	0.00～2.55	フィードバックディレイタイムを選択します。
L Lvl	0～100	左チャンネルのディレイレベルを選択します。
R Lvl	0～100	右チャンネルのディレイレベルを選択します。
C Lvl	0～100	中央チャンネルのディレイレベルを選択します。
FB	0～100	0～100のパーセンテージでフィードバックを調整します。

トレモロ

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
Speed	0.1～10Hz	モジュレーションのスピードを設定します。
Depth	0～100	エフェクトのデプス(深さ)を設定します。
Phase	0～180°	左右のトレモロの位相を設定します。
Mod Typ	Sine、Trg、またはSaw	トレモロのカーブの種類を設定します。

ゲート

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
St/Link	オンまたはオフ	オンにすると左右のパラメーターを同時に編集することが出来ます。
L Thrs	-50～0	左側のゲートのスレッショルドを設定します。
L Atck	0～200	左側のゲートのアタックレートを設定します。
L Rele	0.01～2.55	左側のゲートのリリースレートを設定します。
L Hold	0.00～2.55	入力信号が設定された値を下回ったとき、ゲートが有効になるまでの時間を設定します。
L Range	-INF、-50～0	左側のゲートの範囲を設定します。
R Thrs	-50～0	右側のゲートのスレッショルドを設定します。
R Atck	0～200	右側のゲートのアタックレートを設定します。
R Rele	0.01～2.55	右側のゲートのリリースレートを設定します。
R Hold	0.00～2.55	入力信号が設定された値を下回ったとき、ゲートが有効になるまでの時間を設定します。
R Range	-INF、-50～0	右側のゲートの範囲を設定します。

コンプレッサー

編集可能なプロパティ	レンジ	説明
St/Link	オンまたはオフ	オンにすると左右のパラメーターを同時に編集することが出来ます。
L Thrs	-50～0	左側のコンプレッサーのスレッショルドを設定します。
L Atck	0～200	左側のコンプレッサーのアタックレートを設定します。
L Rele	0.01～2.55	左側のコンプレッサーのリリースレートを設定します。
L Ratio	1.0～10.0、-INF	適用する圧縮の比率を調整します。
R Thrs	-50～0	右側のコンプレッサーのスレッショルドを設定します。
R Atck	0～200	右側のコンプレッサーのアタックレートを設定します。
R Rele	0.01～2.55	右側のコンプレッサーのリリースレートを設定します。
R Ratio	1.0～10.0、-INF	適用する圧縮の比率を調整します

仕様

入力	
コネクター	バランスタイプコンボ（XLR、1/4″TRS）
ノーマルレベル	+4 dBまたは-10 dB（リアパネルスイッチで選択）
インピーダンス	50 K Ω
ノーマルレベル	+16 dBu
出力	
コネクター	バランスタイプXLR、1/4″TRS
ノーマルレベル	+4 dBまたは-10 dB（リアパネルスイッチで選択）
インピーダンス	500 Ω
最大出力レベル	+16 dBu
システム	
周波数応答	20 Hz～20 KHz、±0.5 dB
ダイナミックレンジ	96 dB（typ.）
THD	0.003 % typ.@ +4 dBu、1 KHz
ノイズ	< -80 dB
クロストーク	< -80 dB
デジタル処理	
コンバーター	24ビットAD/DA、32/40ビットシグマデルタDSP、256/512倍オーバーサンプリング
サンプリング周波数	44.1 KHz
プログラムメモリ	
メモリ領域	Program（読み取り専用）、User（読み書き可能）
メモリ構成	4種類のプログラムタイプ（HALL、ROOM、PLATE、SPECIAL）、各タイプで25のプリセットプログラムと25のユーザー設定プログラムが利用可能
フロントパネル	
スイッチ	PRESET/USER、TYPE、BYPASS/COMPARE、STORE、SETUP、EDIT
ロータリースイッチ	INPUT LEVEL、ADJUST、MIX/EFX LEVEL
ディスプレイ	デジタル液晶ディスプレイ、ステレオLED、ユーザーLED、MIDI IN LED
リアパネル	
スイッチ	入力L/R（コンボ）、出力L/R（XLR）（1/4″フォンジャック）、フットスイッチ（1/4″フォンジャック）、MIDIインタフェース5ピンDINソケットIN/OUT/THRU
ヒューズ	AC100-120 V: 1 A、AC200-240 V: 500 mA
サイズ（W×H×D）	483 x 44 x 207.6 mm
重量	2.5 kg

MIDI データフォーマット

STATUS	11110000 (F0H)	
ID No.	00000000 (00H)	
	00100000 (20H)	
	01011001 (59H)	
SUB STATUS	00000000 (00H)	
BYTE COUNT	00000000 (00H)	
BYTE COUNT	01101010 (7AH)	
HEADER	01010000 (50H)	"P"
	01101001 (68H)	"h"
	00110111 (37H)	"7"
	00110011 (33H)	"3"
DATA	0ddddddd	
	0ddddddd	
CHECKSUM	0ccccccc	
END	11110111 (F7H)	

Legend: d = data content
c = checksum

プリセットエフェクト

Hall

Large Hall 1	Concert Hall	Arena	Reverse Hall	Small Gorge
Large Hall 2	Dark Hall	Jazz Club	Spring Hall	Big Castle
Medium Hall	Puzzle Hall	Flashdance	Flutter Hall	Delay Rev Long
Small Hall 1	Vocal Hall	Gothic Hall	Kick Gate	Over tones
Small Hall 2	Slap Hall	Large Church	Du al twist Rev	Shaking Around

Room

Large Room	Dry Mix	Wood Room	Tunnel	Rec Studio
Medium Room	Low Bottom	Room Ambience	Phonic Studio	Rehearsal Room
Small Room	Bright Room 1	Compact Room	Small Early	Fat Space
Live Room	Bright Room 2	Echo Vocal	Bedroom	Reverse Room
Live Gate Room	Tiny Gate Room	Opera	Tiled Room	Jazz Room

Plate

LA Plate	Rev with Tail	Industrial Rev	Reverse Plate	Tape Slap
Delay Spring	Perc. Plate	Strings Space	Small Plate	Large & Bright
Fat Plate	Long Plate	Super Long	Medium Plate	Slice Plate
Light Plate	Vocal Plate	Cave	Large Plate	Techno Gate
Thin Plate	Vocal Plate 2	Basic Plate	Drum Plate	Bubble Rev

Special

Rev Chorus	Rev Flange 2	Reverb Sway	Rev Filter 1	Delay Tap Slap
Chorus Round	Flange Room	Shock Reverb	Rev Filter 2	Panning Delays
Rotary Hall	Sweep Reverb	Hold N’ Sample	Shake Phaser	Flange Tap
Throw Back	Robotverb	Echo Back	Detune Heavy	Chorus Repeat
Rev Flange 1	Pan Reverb	Long Echo	Multi Pong	Chorus Tap

接続例

PC
FOOT SWITCH
OUTPUT
INPUT
PUSH
OUT
THRU
IN
i7300
FOOT SWITCH
MIXER

IN
OUT
SEND
RETURN
ELECTRIC GUITAR
GUITAR AMP